

## メッセージアウトライン

### ヤコブの手紙 1:19~21 「正しい聞き方」

[19]「愛する兄弟たち。あなたがたはそのことを知っているのです。しかし、だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい」

「そのこと」とはクリスチャンは真理のことばによって新しく生まれた者であり、神のものとなったということ。ヤコブは「あなたがたはそのことを知っている」ともう一度確認し、それを知るだけではなく、新しくされた者にふさわしく生きることを勧める。それは三つの具体的な行為によって教えられる。①「聞くには早く」②「語るにはおそく」③「怒るにはおそく」である。①と②は相互に関連がある。神は私たちに耳は二つ、口はひとつとして造ってくださった。このことが象徴するように私たちは聞くことは早く、語ることはおそくあらねばならない。聞くことは情報を集めること、分析すること、判断することすべてに関連する。それによって私たちはどのように行動するかを決定する。それで私たちは正しく生きるためにも早く聞くということが大切な要素となる。それに対して、口は災いのもとと言われるように、口から出ることばは制御されなければならない。→箴言 10:9,17:27,29:20 主イエス・キリストの尊い血によって贖われ、救われた私たちは毎日の生活においてこのことを実行していかなければならない。さらにそれに加えて③も実行する必要がある。その理由は次節。

[20]「人の怒りは、神の義を実現するものではありません」

19節でヤコブは全く怒るなど言っているのではない。この世の悪や人間の墮落と罪、暴虐といったものに対する私心のない怒りというものも必要である。しかし、あまりにもしばしば私たちの怒りは真実で正しい怒りではなく、自己中心的な苛立ちによることが多い。義憤と称して個人的な恨みを晴らしたり、相手に責任をなすりつけて怒ったりする。このように罪の性質を持つ人間は個人的なことを公のことにすり替えたり、他人に責任転嫁することが多い。さらに怒りというものはたいていは爆発し、周りに不快な感情をあたえてしまう。それで、当人が築いてきた人望、評価、名声が一举に崩れてしまうこともある。さらに一番大切なことは人の怒りは、神の義を実現するものではないということである。→エペソ 4:26,31 参照

エペソ書の個所では怒りというものは制御されなければならない、それを持つよりも捨てるほうが推奨されている。人間の怒りで神の義さが現されるということはない。

怒りのあるところ様々な悲しい事件が起こっている。→創世記 4章カインとアベルの例

それゆえ、私たちは個人的な怒りは捨てて、世界のすべてを正しくさばくことのできるお方にゆだねなければならない。→ローマ 12:19、マタイ 18:21~35

[21]「ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます」

「ですから」とは前の文を受けて展開し、結論に導く働きをする。すなわち「人の怒りは神の義を実現するものではない。ですから、人の怒りから出て来るすべての汚れや悪を捨て去りなさい」との教えとなる。人に対して持っている根深い恨み、憎しみ、怒り、汚れた思い、また、自分の内から湧いてくるあらゆる悪の思いを捨てるのである。ちょうど古い汚れた服を脱ぎ捨てるように。しかし、私たちのものの考え方や生活習慣はそう簡単に変えることができず、またそこにサタンが働いていることもある。しかし、私たちはここで信仰を持って、聖霊により頼みつつ、心を一新して神の命じられることに従うことが大切。

→ローマ 12:2　そして、次になすべきことは「心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れる」ことである。なぜなら、みことばはあなたがた（信仰者）のたましいを救うことができるからである。クリスチャンは聖書のみことばによって養われ、戒められ、整えられ、聖められていくものである。今まで悪い方にしか考えが働かなかったものが、聖書のみことばによって変えられていく。

→Ⅱテモテ 3:16~17、エペソ 2:10

この世の過ぎ去り、変化していく様々な雑音を聞くのではなく、私たちのたましいを救う聖書のみことば、神のみことばに耳を傾けて聞く。これこそ正しい聞き方ではないか。そしてそのようにしていくところに私たち信仰者の成長があるのである。